

人間学部

人間学部の教育が目指す目標は、「自分を高め、他者のために考え、行動できる人間の育成」であることは既に述べました。この言葉を皆さんは何度も聞いてきたことでしょう。この項では、わたし達の教育目標を達成するために、清泉が提供する教育課程（カリキュラム）の説明をしていきます。

わたし達が生きる現代社会は、様々な「力」による競争で他者を押しのけていく弱肉強食の論理によって動く社会ではなくなっている、という認識から上記の教育目標は生まれました。わたし達が直面している問題は、人間同士はもとより、わたし達を取り巻く、自然・文化環境との共生を抜きにしては解決できないものとなっています。

心理コミュニケーション学科では、そのような認識に基づき、ひとの知性・感情・行動などの「こころ」の働きがどのように「コミュニケーション」を通して、他者との交わりに至り、共生関係が形成されるか、また「コミュニケーション」の成立によってもたらされる人間関係がどのように共生的な「こころ」の育成に関わっているのか、その相互関係を「心理」と「コミュニケーション」の2点に軸を置いて学んでいきます。

文化学科では、文化を「人間が創り出した営みのすべて」と捉えて、文化に対する知識と理解を深め、人間と文化の関係を探究することを目的としています。社会には様々な問題や課題が存在しています。文化学科は、「人間とは何か」を考え、文化の力で世の中の諸課題に取り組むことを学んでいきます。

教育課程は、人間教育に重きを置いた教養やキャリア教育を中心とした共通教育と各コースの専門分野に基づく専門教育から成り立っています。これらの教育を通じて、専門知識・技術・能力の修得だけではなく、しっかりと他者理解に裏打ちされた、広く深い共生的人間理解を養い育てていきます。

1) 教育研究上の目的

本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅広い教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のこころをもって、他者のために考え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな人人を育成することを目的とする。

2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

清泉女学院大学人間学部は、本学に所定の年限在籍し、以下のような知識、技能、資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士（人間学）の学位を授与する。

- (1) 建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」を理解し、他者の立場を理解し、他者を尊重し、他者のために行動できる。
- (2) 論理的思考を通じて、批判的に物事を分析し、自ら問題を発見することができる。
- (3) 問題解決のため、計画を立案し、他者と協働し、実行することができる。
- (4) 異なる立場、意見を聴き、理解したうえで、自らの立場、意見を正確に伝え、調和ある人間関係をつくりだすことができる。
- (5) 各学科専門領域の学知・技能を体系的に習得し、高度な専門性と広い学識を身につけ、生涯を通じて学び続けることができる。

3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

清泉女学院大学の学位授与方針のもと、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

- (1) 教育課程全体では、7つの力（課題発見力、論理的思考、他者尊重、コミュニケーション力、行動力、企画立案力、発信力）を身につけるために、地域やグローバルなフィールドでの共生の体験を重視し、実践的

活動を取り入れた科目を配置する。

- (2) 「共通教育科目」は、学生の全人的成長および大学での勉学・研究の基礎の構築を目的に、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、目的を達成するために、「建学の理念」、「教養科目」、「学習基礎」、「外国語」、「学外活動・スポーツ」、「キャリア系科目」の科目群から構成する。
- (3) 「専門教育科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。
また、広い視野を身につけるため、他学科・他コースの専門科目の履修も可能とする。
- (4) 留学や学外研修、インターンシップ、ボランティア等、学外での体験・実践を通じて能動的、主体的に学ぶ機会を設け、カリキュラムと関連づける。

4) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学は複数の受験機会と多様な入試を提供している。本学の入試では、大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書、面接及び小論文等を組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

＜受け入れる学生像＞

本学の建学の精神と教育目標に賛同し、大学での勉学・生活を通して、自ら考え行動する意欲にあふれた学生、様々な学修・社会経験をもつ、探究心と学習意欲の高い学生を受け入れる。

- (1) 知識・理解
高等学校の主要教科科目について、高等学校卒業程度の知識をもつ人
- (2) 思考・判断・表現
物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる人
- (3) 関心・意欲
人間に関わる諸分野に関心を持ち、専門的に研究したいという意欲をもつ人。また、その成果を、自分自身の生き方や将来のキャリアに関連づけ、そして、他者のため、現代社会における実践のために活かしていこうとする意欲をもつ人

5) アセスメント・ポリシー（学習成果の指標）

清泉女学院大学では、学習成果を可視化し、大学の教育改革・改善、学生・学習支援の改善等に資するため、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づき、機関（大学全体）レベル、教育プログラム（学科）レベル、科目レベルの3段階で学習の成果を適切に評価するための基本方針であるアセスメント・ポリシーを定める。

1. 機関（大学）レベル

大学全体の学修成果は、入試実施状況や出願書類から、入学後の学修状況やGPA、学生生活の満足度、学籍動向、さらには卒業論文の評価や学位授与、免許・資格取得状況、卒業後の進路状況やアンケートまで、時系列的に学修の成果を測定・評価する。

2. 教育プログラム（学部・学科）レベル

学部・学科における学修成果は、各学部・学科の入試実施状況や出願書類、入学後の学修状況やGPA、学生生活の満足度、学籍動向、卒業論文の評価や学位授与、免許・資格取得状況、卒業後の進路状況やアンケート等の共通の評価指標と、各学部・学科が設定する「学修成果」に対応した評価指標を用いて測定・評価する。

3. 科目レベル

各科目の学修成果は、シラバスの成績評価基準に基づく合格率や成績分布、学生による授業評価アンケート、教員個々のPDCAシート、各種検定試験の結果等から測定・評価する。

各レベルにおけるポリシーごとの評価指標

	入学前・入学時	在学中	卒業時・卒業後
	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシー
機関（大学）レベル	各種入学試験 面接・志望動機等 調査書等の記載内容 入学者の追跡調査による選抜 方法の検証	単位修得状況 GPA 学籍動向（休学率や退学率等） 学生生活満足度調査	単位修得状況 GPA 学位授与数 卒業率 卒業論文評価シートの平均達成度 ポートフォリオ 免許・資格取得状況 就職・進学率 卒業時進路調査 卒業後アンケート
教育プログラム（学部・学科）レベル	各種入学試験 面接・志望動機等 調査書等の記載内容 入学者の追跡調査による選抜 方法の検証	単位修得状況 GPA 学籍動向（休学率や退学率等） 学生生活満足度調査 7つの力のルーブリック 各種検定試験の結果	単位修得状況 GPA 学位授与数 卒業率 卒業論文評価シートの平均達成度 学科ポートフォリオ 免許・資格取得状況 就職・進学率 卒業時進路調査 卒業後アンケート 7つの力のルーブリック
科目レベル	各種入学試験 英語プレースメントテスト	成績評価基準 合格率 成績分布 GPA 授業評価アンケート PDCAシート 各種検定試験の結果 相互参観・FD活動等による評価	

1. 共通教育

履修科目選択の際に分かりやすいように、共通教育科目をいくつかの科目群に細分化しました。これらの科目群は、以下に示すように、内容的には①「建学の理念」と「教養」、②「学習基礎」、③「外国語」、④「学外活動・スポーツ」⑤「キャリア系科目」の5つに区分することができます。

- ①「建学の精神」と「教養」：キリスト教思想を建学の精神として学び、人間が培ってきた文化の概要を学んでいきます。
- ②「学習基礎」：すべての専門的な学習に必要な方法の基礎を学びます。
- ③「外国語」：外国語1として英語を基礎から学びます。また、第二外国語を共通教育教養として位置づけています。
- ④「学外活動・スポーツ」：ボランティア活動や海外研修、短期留学等に参加した際に単位認定される科目です。「健康科学」は教員免許状を取得する場合は必修科目です。
- ⑤「キャリア系科目」：ツールとしての「言語科目」、職業準備と職場体験を学ぶ「実務科目」、キャリア準備の総合科目としての「キャリア・デベロップメント」、就職試験準備を行う「キャリアの基礎教育」の4系列の科目から構成されています。

2. 専門教育 心理コミュニケーション学科

1) 教育研究上の目的

心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を有する人材を育成することを目的とする。

2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

心理コミュニケーション学科では、養成する人材の目的を踏まえ、学生に学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針を次のとおり定めることとする。

＜ディプロマ・ポリシー＞

- (1) 地域や社会の問題に関心を持ち、課題解決に向けた批判的な分析と論理的な思考ができる能力を修得している。
- (2) 自己理解をもとに、コミュニケーションを通して、さまざまなバックグラウンドを持つ他者との共生関係を築くことができる能力を修得している。
- (3) コミュニティの中での課題解決に向けた計画を立案し、他者に働きかけながら協同して実行することができる能力を修得している。
- (4) 心理と英語コミュニケーションの各専門領域における体系的な学習のもと、高度な専門性と広い学識を修得している。

●心理コースは、

- ・社会の事象を心理学の視点から考えることができる、幅広い心理学の知識を修得している。
- ・統計的分析を行なうことができる、研究法と統計的分析の知識・実践能力を修得している。
- ・社会の諸分野で応用し実践することができる、心理学の応用的知識・能力を修得している。

●英語コミュニケーションコースは、

- ・実践的な英語スキルを修得している。
- ・国際感覚を身につけ、深い異文化理解をもとにしたコミュニケーション能力を修得している。
- ・教育理論と外国語教授法を身につけ、その英語教育能力の伸長をはかることができる能力を修得している。
- ・身につけた英語スキルや国際感覚を社会のさまざまな場面で活用する能力を修得している。

3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

心理コミュニケーション学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針を次のとおり定める。

＜学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針＞

- (1) 専門科目のカリキュラムは、基礎科目と展開科目を設ける。
- (2) 心理コースの教育課程編成の方針
 - ① 心理学の研究方法を学ぶ基礎科目と、心理学の諸理論や実践を系統別に学ぶ展開科目から構成する。
 - ② 社会での心の働きを学ぶ基礎社会系の科目群と、生涯発達の過程を学ぶ学校・発達支援系の科目群を配置する。

- ③ 臨床心理学を基礎として心理療法や地域支援などの支援法を学ぶ臨床心理系の科目群と、調査やカウンセリング等を実習的に学ぶ実習的科目群を配置する。
 - ④ 社会の諸側面を心理学の点から捉える応用的科目群を配置する。
- (3) 英語コミュニケーションコースの教育課程編成の方針
- ① 英語の4技能を身につける基礎科目と、身につけた4技能を総合的に応用する展開科目から構成する。
 - ② 異文化の壁を越えてコミュニケーションできる力をつけることを目指し、日本と他の国々の文学、文化を多角的に理解する科目群を配置する。
 - ③ ツーリズム、ビジネス等での応用実践を行う科目群を配置する。
 - ④ 教育理論を修得し外国語修得法を身につけた英語教育に携わることのできる人材を育てる教職課程科目群を配置する。
- (4) 専門的能力の育成のために、2年次の基礎演習、3年次の専門演習を設け、4年間の専門的学習の総仕上げとして4年次の必修科目として「卒業研究・論文」と「専門セミナー」を配置する。

4) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を、心理学、英語、教育という分野を通して養成する心理コースと英語コミュニケーションコースの2コースから成り、それぞれ以下のような関心をもつ学生を受け入れる。

〔心理コース〕

心理コースは、人の心の働きや社会との関わりを中心に学ぶコースであり、以下の点において強い熱意をもつ学生を受け入れる。

- ① 人の心や行動に関心をもつ人
- ② 心の問題に対し他者に寄り添いながら支援する意欲をもつ人
- ③ 心に関する知識を現代社会で実践的に活かそうとする人

〔英語コミュニケーションコース〕

英語コミュニケーションコースは英語の高い運用能力を教育や社会場面で活かす方法を学ぶコースであり、以下の点において強い熱意をもつ学生を受け入れる。

- ① 英語力を高める熱意がある人
- ② 将来、学校や企業で英語を使った仕事をしたい人
- ③ 外国の文学や文化の理解に関心のある人
- ④ 短期海外研修や長期海外留学に参加したい人

5) 各コースの特徴

心理コミュニケーション学科では2つのコースを配置し、系統的な専門教育を行っています。各コースの専門教育科目は「基礎科目」と「展開科目」を通して、その分野の概括的な学習を行います。2年次に設けられている「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」と3、4年次の「専門演習Ⅰ、Ⅱ」および卒業研究の指導をおこなう「専門セミナー」は、専門分野ごとに少人数で行うセミナー科目であり、該当分野の実践的学習を取り入れた科目内容となっています。

(1) 心理コースの特徴

- ① 現代の心理学

大きな書店に行って「心理学」の棚を一渡り眺めてみてください。実にたくさんの「心理学」を書名に

冠した本が並んでいることに気がつくでしょう。オーソドックスな「発達心理学」、「学習心理学」、「臨床心理学」の横に「セクシャリティーの心理学」、「犯罪心理学」、その隣には「絵本の心理学」、「匂いの心理学」、「色彩の心理学」、「服装心理学」、「恋愛心理学」等々、心理学にはどんな組み合わせも可といった状況が繰り広げられています。

この心理学の洪水とも思われる現況は歓迎すべきものでしょう。つまり、わたしたちが人の「こころ」に注意を向け始めたことを示しているからです。同時に、「こころ」に注意を向けざるを得ない時代が到来したことを示唆するものでもあるでしょう。この「洪水」という比喩が暗示するように、わたしたちはこの波に呑み込まれ、流されてしまう危険な状況にもさらされているのです。

心理学を専門として大学に入学してきたあなた方はこの学問を将来の生き方の指針とし、職業選択の重要な手掛かりにしようとしている訳ですから、最初から明確な方針のもとに科目履修計画を立てる必要があります。

② 心理学の研究方法与基礎理論に基づいた学習

他の学問分野と同様に、心理学にも「方法論」があります。この方法論は心理学の研究を行う際に使う研究方法です。心理学研究法を通して、わたしたちは、研究対象にどのようにアプローチし、どんな計測方法を使って研究対象を測り、その結果を解釈し、その解釈を他の人に分かるように表現する方法を学びます。料理を学ぶものが包丁の使い方、煮る、焼く、蒸す方法を学ぶことで様々な料理にその技術を応用出来るようになることに例えることができるでしょう。心理コースで、わたしたちは、この心理学研究方法の基礎をしっかりと身につけ、どんな状況にも対処できるようになります。

狭義に解釈すれば、心理学はこの1世紀の間に積み上げられてきた学問分野であると言ってもよいでしょう。この間に、様々な方法論のもとに、たくさんの理論が出されました。上記の様々な「～心理学」も多かれ少なかれ過去に積み上げられてきた理論の上に立って、新しい研究対象を扱ったものと言っても過言ではないでしょう。従って、わたしたちは数多くの理論の中から基礎的なものを学ぶ必要があります。展開科目の中にそのような理論を学ぶ科目が配置されています。

あなた方の中にはすでに、「わたしは臨床心理学を学んで心理臨床を職業にしたい」、「わたしは教育心理学や発達心理学を学んでスクール・カウンセラーになりたい」と自分自身が勉強したい分野がはっきりしている人もいるでしょう。とてもよいことだと思います。しかし、これらの絞られた分野に焦点を合わせるためにも「研究方法」と「基礎理論」に裏付けられた幅広い学習が重要です。

心理コミュニケーション学科では本当に役に立つ心理学実践者、研究者を育てるために基礎教育に力を注いでいます。

③ 基礎と展開

心理コースの専門科目は、基礎科目と展開科目に分かれます。基礎科目では、こころにアプローチするための研究手法を学びます。心理学の研究手法はさまざまですから、複数の科目履修を通してこころにアプローチする手法を身につけてください。展開科目では、これまでの心理学の理論や知見を学ぶ科目が、幾つかの系統別に配置されています。友人や学校、社会での人間関係を作り出し動かしていくこころのあり方とその基礎を学ぶ「基礎社会系」、人間の成長・発達過程を赤ちゃんから始まって、幼児、青年、成人、高齢者までを一貫した生涯発達のプロセスとして捉えながら、それぞれの段階のこころの特徴や成長のプロセスを学ぶ「学校・発達支援系」、カウンセリングや心理療法の理論と技法の学習をとおして、悩みを抱える人に対する支援の方法を学ぶ「臨床心理系」、調査やカウンセリング等の応用的なアプローチ法を実習的に学ぶ「実習的科目群」、基礎的な知見をベースに社会の諸側面を捉える「応用的科目群」として配置されています。

心理コースの専門科目は上記のように分かれています。心理学を学ぶ場合には、認定心理士の資格取得を目指して、いずれの科目群からもバランスよく一定の科目履修をすることが望まれます。

④ 心理コース履修のアドバイス

この心理コースのカリキュラムは、卒業後にあなたが心理学に直接または間接に関わる活かし方ができるように、基礎から応用へと体系的に組み上げられています。カリキュラムの組み方は、公認心理師や認定心理士の資格認定を行っている日本心理学会の基本的なガイドラインに沿って、その中で清泉女学院大学の独自性を出したものになっています。従って、履修に際しては「つまみ食い」は避け、体系的な履修を心がけましょう。

(2) 英語コミュニケーションコースの特徴

① 構成と狙い

近年、わが国はグローバル化する世界の情勢や国際競争の激烈化を背景に、英語教育の抜本的な改革に踏み出しました。英語で会議をする会社が増えていることやTOEICの点数が実社会では重視されるなどという話はもはや珍しくなく、英語は国際語として当たり前のツールになりつつあります。あらゆる国の人々と、国の内外でコミュニケーションを図る機会がますます増えていくでしょう。それに伴って多様な文化的背景や発想に接しつつ、地球市民として共に助け合うことが求められています。

さらに、外国語を使って「何ができるのか」を明確にし、具体的な能力を示す証が求められるようになってきました。自分の能力を知り、自分の学習に責任を持つことが求められています。さまざまな場面に応じて自分が目標とする言語で何ができるのかを具体的に示す「ものさしの目盛り」がCan-doリストという一覧であり、「ものさし」となるものがCEFR（ヨーロッパ共通参照枠）であり、現在では世界基準として活用されるようになりました。

この「ものさし」を参照し、英語を使って何をするのかを明確にできるように、英語コミュニケーションコースでは2つの領域が用意されています。人生設計とも絡めながら、2年生までにじっくり考えて選択してください。

② 英語コミュニケーションコースの目標と内容

多文化理解領域またはことば・教育領域のどちらを選択しても、英語コミュニケーションコースに所属する学生は、具体的な目標をCEFRのCan-doリストで確認しながら着実に実践的コミュニケーション・スキルを習得し、例えば、TOEICならば650点に相当する英語レベルに到達することが卒業までに望まれます。

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R TOEIC S&W
C 2	CPE (200+)			8.5 9.0				
C 1	CAE (180~199)	1 級 (2630~3400)	1370 1400	7.0 8.0	400	800	95 120	1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B 2	FCE (160~179)	準 1 級 (2304~3000)	1160 1369	5.5 6.5	334 399	600 795	72 94	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B 1	PET (140~159)	2 級 (1980~2600)	880 1159	4.0 5.0	226 333	420 595	42 71	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A 2	KET (120~139)	準 2 級 (1728~2400)	510 879	3.0	150 225	235 415		385-785 L&R 225~ S&W 160~
A 1		3 級-5 級 (419-2200)	-509	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

(2023年3月現在)

(a) 「多文化理解領域」について

世界の多様な文化・文学を広く理解して国際的な視野を広げ、海外研修や実習・インターンを通して実践的に様々な分野で英語を使って活躍できる能力を習得することが目標です。実践的英語コミュニケーションスキルを身につけるために、英語に多く触れることが大切ですので、授業の多くは英語で行われています。また、異文化コミュニケーションや日本の伝統文化を理解するための科目などを通して、世界の文化を広く学び、国際的視野を広げます。世界の人々はどんな暮らしをしているのか、それぞれの歴史や文化はどのように形成されてきたのか、どのような価値観を持っているのかなどについて学び、さらに興味ある地域について専門的に研究することもできます。英語で行われる授業を通してコミュニケーション能力を高め、社会の様々な場面で英語を使って活躍できる人材となることを目指します。卒業までに、TOEIC650点以上の英語力を身につけましょう。

(b) 「ことば・教育領域」について

ことばとしての英語のしくみや考え方、また外国語を習得するプロセスを理解し、ことばの知識を効果的な学習に活かすことにより、子どもたちとのふれ合いや実習を通して、実践的なコミュニケーション力の養成を目指します。近年、英語教育界は大きな転機を迎えています。中学校・高校だけでなく、小学校でも外国語活動や外国語科教育が実施され、学習者のコミュニケーション能力を向上させることが強く求められています。各種の英語検定などにチャレンジしながら、海外語学研修や異文化体験、ボランティア活動にも積極的に参加し、ことばの魅力を学んでいきましょう。教員免許取得を目指す方は、TOEIC730点、英検準1級を目標にしましょう。なお、英語教職課程の詳細は、「中学校・高等学校教諭一種免許状取得」を参照してください。

③ 課外で英語に触れる機会・活動の提供

英語力の基本は、十分なインプットを日常的に浴びることです。普段から、ラジオ・TV番組、CALL教室、外部英語講座などの活用、ならびに多くの英文を読むことを薦めます。図書館には、段階的な英語レベルに応じた楽しいテキストが揃えてあります。以下のプログラムを活用し、日頃から英語に親しむ習慣を身につけましょう。

(a) 課外活動プログラム

海外からのゲストとの学内交流会や学外ガイド活動、学長杯英語スピーチコンテストなどが計画されています。

(b) 実習プログラム

国内・海外研修や実習などが計画されています。また教職関係実習として介護体験、教育実習、学習チューター（ボランティア）などがあります。

(c) 言語学習プログラム

オンライン学習をはじめとし、英会話集中コースや多読プログラムなど、長期休業中も自宅や旅先などで英語学習を維持し、英語力の向上を目指すことができます。

(d) 海外語学研修・異文化体験プログラム

大学には、海外語学研修や異文化体験プログラムに対しする補助金制度があります。英語力の養成や異文化体験をとおして、コミュニケーション力や人間力を高めるためにも、この制度を十分活用しましょう。

＜英語学習サポート＞

本学では新入生、2～4年生の英語コミュニケーションコースに所属する学生、また希望者に対して、年に3回、英語のテストを実施しています。皆さんの英語力を確認するためのテストで、大学に入ってから自分の学力がどのように伸長しているかを知ることができます。また、ポートフォリオを活用して自分自身の英語力の伸長をチェックしていきます。

(3) コースでの学び・コースの選択・コース変更について

心理コミュニケーション学科には「心理コース」「英語コミュニケーションコース」の2つのコースがあります。以下の点に注意しながら、4年間の履修計画を立てましょう。

各自の興味によって、資格関係の科目の履修にあてることもできますし、他コースの科目を履修し、学習内容に幅を持たせることも出来ます。

- ① 資格取得：心理コミュニケーション学科で以下の免許・資格や検定がとれるようにカリキュラムが組まれています。所属コースのカリキュラムによって、取りやすさの差はありますが、どちらのコースに所属しても取得可能です。

- * 免許：中学校・高等学校教諭一種免許（英語）
- * 資格：公認心理師、認定心理士、社会調査士等
- * 検定：ピア・ヘルパー、英検、TOEIC、日商PC、ITパスポート、Webクリエイター等

- ② 中学校・高等学校教諭一種免許状外国語（英語）取得希望者：1年次より関連科目がありますので、希望者は「中学校・高等学校教諭一種免許状の取得」を熟読し、ガイダンスやメンターからの履修指導をしっかりと受けてください。

- ③ 専門セミナー・卒業研究：専門セミナーや卒業研究・論文は専門性の高い科目ですから、原則として、自分が所属するコースの教員もしくは、隣接領域の担当者より指導を受けることになります。

- ④ コース選択と変更：コース選択の申請は1年次12月に行います。従って、1年次にはコースの所属はありません。コース選択の後、原則としてコース変更はできません。しかし、各自の履修計画の大幅な変更が必要となったときには、本人の申請を厳正に審査したうえで、例外的にコース変更を認める場合もあります。教育課程編成の性質から、この変更は原則的には2年次の終わりまでが限度となるでしょう。

3. 専門教育 文化学科

1) 教育研究上の目的

文化学科では、文化学分野に関する教育研究を通して、「文化に関する諸学の幅広い知識と自らが帰属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献できる人材を養成する。」ことを目的としている。

また、養成する人材像として「グローバルな視野のもと、我国や地域の文化に関する幅広い知識や理解を身につけ、PBLを重視した教育により文化資源の活用や文化活動の企画・運営に関するプロデュース能力を修得するとともに、豊かな人間力や高い見識と広い教養を涵養する。」こととしている。

2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文化学科では、養成する人材の目的を踏まえ、学生に学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針を次のとおり定めることとする。

- (1) 文化に関する情報を収集し、知識を身につけ、さまざまな角度から理解する能力を修得している。
- (2) 文化に関する問題や現象に関心を持ち、課題解決に向け客観的に分析し、論理的に思考する能力を修得している。
- (3) 文化に関する諸課題の解決のため、他者への共感に基づいた実践的な企画やアイデアを立案する能力を修得している。
- (4) 文化に関する企画やアイデアの実現に向けた行動する能力とプロデュースする能力を修得している。

- (5) 文化に関する調査や資料分析など課題を探究するための研究意識と研究能力を修得している。
- (6) 基礎学力と豊かな教養を身に付けるとともに、日本語と外国語の運用能力や情報リテラシー及び自らのキャリア形成を実現するための能力を修得している。

3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

文化学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針を次のとおり定める。

- (1) 文化に関する知識の修得及び文化の歴史的過程や地域的特色と社会的事象について理解するための科目を配置する。
- (2) 地域文化と文化政策や文化交流に関する知識及び地方創生のための文化振興の特性や文化資源の活用に関する知識を修得するための科目を配置する。
- (3) 文化活動の意義や役割、文化活動の企画や実践、文化活動を主体的かつ合理的に行うための基礎的な知識と能力を修得するための科目を配置する。
- (4) 課題を見つけ出す力を高めるとともに、物事を現状からより良い方向へ移行・変化させるための方法や能力を身に付けるための実践的な科目を配置する。
- (5) 文化研究に関する意識の涵養と文化を質的又は量的な側面から扱う調査方法や分析手法の習得及び批判力、論理性、表現力を高める科目群を配置する。

4) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文化学科では、文化学分野に関する教育研究を通して、「文化に関する諸学の幅広い知識と自らが帰属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献できる人材を養成する」ことから、以下のような文化学に対する興味と関心や学修意欲を有する者を受け入れる。

- (1) 過去から現代に続く文化を読み解き、創造することに関心のある人
- (2) 芸術文化をマネジメントして、社会に貢献したい人
- (3) 社会や企業で、発想力、企画力を生かして活躍したい人
- (4) 社会の様々な問題に関心を持ち、現状を分析し、解決策を考えることに関心がある人

5) 文化学科の特徴

① 文化の基礎理論とフィールドワークに基づいた実践的学習

「文化」とは何か。その問いに答える絶対的な「文化」の定義はありません。そこで、本学科では「人間が創り出した営みのすべて」と定義し、文化に関する一般的な理論を学びながら人間の歴史と伴にダイナミックに展開してきた文化への理解を深めていきます。しかし、理論的理解だけでは人の営みの中で常に創り出される文化の実態を読み解くことはできません。よって、文化学科では、文化の現場を知るためのフィールドワークを行います。この活動を通して文化を観察し、体験し、そして人々と対話することで、「文化とは」の問いを探究していきます。

② 社会の課題解決のために文化をプロデュースする力の習得

文化学科の目的は、文化を社会の課題解決に向けて活かすことです。それを私たちは「課題解決型の文化学」と呼んでいます。そのために必要な文化をプロデュースする技術と能力を「文化企画実践Ⅰ～Ⅵ」科目で学び、「文化活動演習Ⅰ～Ⅲ」「文化調査実習」などの演習科目で実践的に身につけていきます。具体的に

は、市や県といった行政や企業などの民間の組織と連携して、地域の課題に取り組み、分析力、企画力、コミュニケーション力、行動力を習得していきます。

文化学科の科目を通じて、普段はあまり気づかないけれど、文化というものは実際には私たちの生活の隅々まで行きわたり、私たちの日常に大きな影響を与えているものであることを学びます。このように文化をプロデュースして活用することは、人々の生活や社会に対して新たな影響力を生み出すことにつながります。

③ カリキュラム構成

文化学科の専門科目は、専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目、専門実践科目、専門研究科目に分かれ、それぞれ目的をもって段階的に学んでいくよう配置されています。

専門基礎科目では、必修科目で文化と人間の関係性を学び、文化学へのアプローチを理解します。専門基幹科目では、文化について総論的理解を深め、文化の仕組みや機能について学びます。そして専門展開科目では、専門基礎や基幹科目で学んだ文化に関する基礎的理解のもとに、文化の各論的理解を進めていきます。そこでは興味や関心がある文化項目を選択し、具体的な文化現象や事例について学びます。さらに、「文化活動演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で、地域課題に文化的アプローチで取り組むプロジェクト学習を行います。

専門実践科目は、文化をプロデュースするために必要な基礎的知識と技術を学ぶことを目的としています。必修科目として6科目の「文化企画実践」が置かれ、3年次後期の「文化調査実習」を通して具体的に理解していきます。

そして、3年次と4年次には通年科目として専門研究科目が配置されています。これまでの学びを統合し、文化学科の学びのゴールである卒業研究にむけて研究テーマや課題を少人数で行う演習を通して探求していきます。

その他、文化学科の専門科目には、学芸員・司書資格取得のための専門関連科目が設置されています。資格関連科目に加えて図書館や博物館などで実習を行うことで、資格取得が可能になります。専門関連科目は、資格取得を希望しない者も履修できます。これらの科目を通じて、文化プロデュースの実践現場を理解し、文化を扱うスキルを学ぶことができます。

④ 学芸員及び司書資格課程とその実践

文化学科には、資格取得に必要な文部科学省令の定める博物館学及び図書館学に関する科目があります。資格科目で学んだ知識を活かして、大学の外へ出てまちや人と関わりながらワークショップや展覧会、教育普及活動を実施し、実践的に学んでいきます。学芸員及び司書資格課程の学びは、博物館や図書館職員といった専門職だけでなく、まちづくりや企業PRなどを目的とした分野でも役立ちます。

⑤ 資格取得

文化学科では、以下の免許・資格や検定がとれるようにカリキュラムが組まれています。

- * 国家資格：学芸員、司書、ITパスポート
- * その他検定・資格：日商PC（文書作成/データ活用）、カラーコーディネーター、美術検定、ファイナンシャルプランナー